

研究課題名	心不全患者に対する包括的心臓リハビリテーションの効果検証
研究責任者名	広島大学病院診療支援部リハビリテーション部門 塩田 繁人
研究期間	実施許可日 ~ 2028年3月31日
対象者	2020年4月~2025年3月に、心不全にて入院し、リハビリテーション治療を実施された患者さん
意義・目的	<p>心不全をはじめとする循環器病は加齢とともに患者数が増加する傾向にあり、我が国の主要な死亡原因です。心疾患は、国民医療費では最多の19.2%を占め、生命や健康に重大な影響を与える疾患であるとともに、社会全体にも大きな影響を与える疾患です。こうした現状により健康寿命の延伸等を図り、医療及び介護に係る負担を軽減するため、予防や医療及び福祉に係るサービスの在り方の対策が必要とされています。</p> <p>心不全の再発要因には塩分・水分制限の不徹底、過労等が要因として挙げられ、日常生活に関連した保健行動についての患者教育が必要であるとされています。そして、それらが多職種によって包括された疾病管理プログラムの再入院予防効果が様々報告されてます。</p> <p>疾病管理プログラムは、患者教育、患者あるいは医療者による症状モニタリング、治療薬の調節、看護師による継続的なフォローアップなどで構成されます。これらを効果的に運用するシステムとして、包括的心臓リハビリテーションを積極的に活用することが望ましいとされています。しかしながら、そのチームの構成員や疾病管理の構成要素に一定の見解は得られていません。</p> <p>本研究の目的は心不全にて入院し、リハビリテーション治療を含む加療後に自宅退院した患者に対して、再入院率をアウトカムとした包括的心臓リハビリテーションの効果を検証することです。</p>
方法	<p>本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。</p> <p>カルテから使用する内容は以下の通りです。</p> <p>基本情報：年齢、性別、入院前居住地（自宅・施設）、同居家族、入院前後の要介護度、入院前後の利用中介護保険サービス、医療保険での訪問看護及び訪問リハビリテーションの有無、転帰（再入院・死亡）、New York Heart Association：NYHA分類、合併症（Charlson Comorbidity Index：チャールソン併存疾患指数）、血液データ（Hb, Na, K, NT-proBNP, e-GFR, ALB）、心不全に関連する心疾患（弁膜症など）、LVEFによる心不全の分類</p> <p>治療内容：薬物療法の内容、ペースメーカーデバイスの有無</p> <p>認知機能：認知症高齢者の日常生活自立度、Mini-Mental State Examination、前頭葉機能検査</p> <p>ADL：Barthel Index</p> <p>リハビリテーション関連項目：提供されたリハビリテーションの種類（理学・作業）、単位数、プログラム内容、6分間歩行試験、握力、10m歩行（秒）、Short Physical Performance Battery、</p>

外来心臓リハビリテーションの有無, Clinical Frail Scale
その他：看護師による患者教育の有無, 栄養指導の有無, 多職種カンファレンスの有無

取得した情報は、氏名・住所・生年月日等の個人情報を削り、代わりに新しく研究用の符号をつけ、どなたのものか分からないようにして研究に用います。

共同研究機関

ありません

利用または提供を開始する予定日

実施許可日以降

個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には、提供していただいた情報や、試料に基づくデータを結果から取り除くことができない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人を識別できる情報は含まれません。

また、本研究に関するご質問等あれば下記連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報等の保護や研究の独創性確保に支障がない範囲内で、研究計画書および関連書類を閲覧することができますので、お申し出ください。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5566

広島大学病院診療支援部リハビリテーション部門 作業療法士 村瀬 瑞希